



病院だより 66



美祿市病院事業管理者
高橋 睦夫

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。
います。

昨年の8月21日～23日の3日間、美祿市病院事業局の引き受けで、山口大学、県、美祿市の支援と多くの人々の協力のもと、山口大学医学部生10人と山口県出身の自治医科大学生11人及び高知県出身の医学部生2人の合計23人の学生が美祿市に集まり、「やまぐち地域医療セミナー2014in美祿」が開催されました。このセミナーの目的は、「地域のスタッフや地域住民とのコミュニケーションをはかり、地域の生活や地域医療の現状を直接肌で感じ、将来の地域医療のあり方について考える」ことでした。この3日間、学生さんたちは美祿市立病院、美祿市立美東病院、開

業医、訪問看護ステーション、保育園など様々な施設に見学・研修に行き、実体験しました。後日、学生さんたちの感想を聞くと「美祿市の人々は、親切で有意義な3日間が過ごせました」と好評でした。ある学生は、将来、機会があれば、美祿市で診療に携わりたいと話しておりました。今回のセミナーで一人でも多くの医学生が美祿市に興味を持ち、美祿市の医療を支えてくれるようになればと願っています。

医療現場では、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる2025年問題が懸案となっています。その理由は、後期高齢者人口の増加により医療費が高騰し、そのピークが2025年にやってくるためです。この高齢者の人口増加は、東京や大阪などの大都市圏で、特に著しく、医療費の高騰のみならず、高齢者の介護をする人手不足が問題となっています。幸いにも、美祿市では、高齢者人口の増加はさほどではありませんが、高齢化率は年々上昇し、介護をする人も次第に高齢になります。そのため、介護を必要とする人の地域全体での支援が欠かせないものとなっています。

さて、昨年にも記載しましたが、病院事業局は現場の医療スタッフと協力して「市民の皆さんが安心して、いつでも適切な医療を受けることができる病院」作りをモットーとして、美祿市の医療環境の改善を図っています。しかしながら、昨今の全国的な医師・看護師などの医療従事者不足の影響により、残念ながら、昨年度も医師を含めた診療スタッフが充足されていません。また、良質な医療を市民の皆さんに提供する為には、病院のスタッフが各々の部署や立場で、「責任と誇りを持って働ける職場」作りが不可欠です。そのためには、市民の皆さんの温かいご支援とご協力が必要と考えます。そこで、緊急の場合を除いては、夜間または休日の安易な受診は控えていただくことや皆さんが日頃から健康づくりに取り組み、地域医療に関する理解を深めていただくことを希望いたします。

以上、年頭にあたり、皆様のご協力をお願いするとともに、本年も宜しく願い申し上げます。

「クィーンズヘッド(女王頭)」モニュメント設置

平成26年2月に、一般社団法人美祢市観光協会と台湾の野柳地質公園の管理運営事業者である新空間国際有限公司が「観光交流・学术交流の促進に関する協定」を締結し、その記念として野柳地質公園を代表する奇岩「クィーンズヘッド(女王頭)」のモニュメントが美祢市に寄贈されました。

平成26年9月27日に開催された美祢ランタンナイトフェスティバルにおいて、除幕式を行い、より多くの人に周知していただきたいとの野柳地質公園側の意向から、平成26年10月末に秋芳洞商店街内にある秋芳洞ふれあい広場に設置しました。

今後は、美祢市と台湾の交流の証として、秋芳洞を訪れる多くの観光客の新たな観光スポットになることが期待されます。



～野柳地質公園とは～

台湾新北市萬里区にあって、北海岸に細長く突出した岬です。公園には、一千万年に及ぶ旺盛な地殻運動、海蝕・風蝕の影響を受けて、キノコ岩・ショウガ岩・壺穴・豆腐岩・海蝕洞など、神が絶妙の鉋と斧をふるった奇抜な海岸景観が展開しています。全長1700メートルの岬は、大自然の石彫芸術の展示場ともいえ、北部台湾を代表する景勝地になっています。周辺には豊かな海洋生態・漁村風情が広がり、マリンパーク「海洋世界」と合わせて野柳はまさに行楽と教育を兼ねた格好の観光スポットです。



自分ができる事に目を向けて

NO.2

ロゴデザイン:高橋紀之氏 【NO.1は8月号掲載】

障害のある人が、「美祢市役所で働きたい!」と思える職場環境を目指して!!

市役所の取り組みの一例ですが、本年度6月より2人の障害のある人に実際に市役所で働いていただき、雇用の場の創出・拡大と市役所職員への啓発に努めています。

ご自身も障害がある高橋紀之さんに、当事者の観点から、市の取り組みに対してご意見等をいただき、また、今後、広報「げんきみね。」や市ホームページ等により、市民の皆さんに市役所の取り組みを紹介する広報担当として協力いただきます。

それぞれが、「自分ができる事に目を向けて」 共生社会の実現を図ります。

あけましておめでとうございます。この度、美祢市役所における障害者雇用の取り組みについて広報活動をさせていただく事になりました高橋です。簡単ですが自己紹介をさせていただきます。

1978年生まれ2000年に交通事故により脊髄に損傷(四肢麻痺)を負い、現在は、社会福祉協議会のボランティアセンター運営委員、美祢市行政改革推進委員や市内外で学生や市民の方々へ障がいによる実体験をもとに自分ができる事について講演をさせていただいております。

各種活動をさせていただいている中で感じた事は、障がいのある方自身が様々な活動へ参加されていない事と、障がいのある方に接した事が無い方の多さでした。

これでは障がい者に対して、無関心・知識不足による偏見または、差別が生まれかねないとの想いを持ったところです。

本年度より市役所は障がいのある方が、働きやすい職場環境づくりに取り組むとしており、その広報活動を私がおこなう事となりました。

この世の中には様々な障がい、難病、病気等がありますが、障がい者当事者としてのフィルターを通しながら情報発信し、理解を広げ深めていただければと思いますので、今後ともお付き合いの程、よろしく申し上げます。

高橋紀之(美祢市西厚保町)

